社会・民俗

守能信次著

スポーツとルールの社会学
—《面白さ》をささえる倫理と論理—

〔品切〕A5 判・358 頁・3,200 円

公正・平等といった価値体系のみに依拠する従来のルール論，スポーツ論の観念性と不毛性を社会科学的視点から鋭く批判し，スポーツ・ルールの存在理由と意味を，その機能と構造に即し根底から問い直す。斬新な視角からスポーツとルールへの再考を迫る意欲作。

〔1984〕978-4-930689-23-8

アルベール・バイエ著　久保田勉訳

道徳の社会学

〔品切〕四六判・218 頁・2,500 円

デュルケームやレヴィ・ブリュールの流れを汲む著者は，言語，宗教，法律，習俗，文学等を素材に道徳現象の科学的究明を企図。ドイツ系の規範的倫理学とは異なるフランス社会学派の道徳研究の視点と方法を明晰・コンパクトに指示する。わが国で初のフランス道徳社会学の紹介。

〔1987〕978-4-930689-73-3

梶田孝道編

［第 2 版］国際社会学
—国家を超える現象をどうとらえるか—

A5 判・360 頁・2,800 円

民族宗教紛争，移民難民問題，資源環境問題等にみられる近年の国際社会の地殻的変動は新しい社会学を要請している。本書は，個別領域研究の蓄積を踏まえて，これらトランスナショナルな生きた現実が提起する主要問題群とアプローチのための視座を提供する「中範囲の理論」化の試み。

〔1996〕978-4-8158-0173-1

関根政美著

エスニシティの政治社会学
—民族紛争の制度化のために—

A5 判・338 頁・2,800 円

冷戦終結とともに世界的規模で激化している人種・民族紛争の原因は何か？　人種・民族・エスニシティに関する近年の動向と従来の膨大な諸学説を明快に鳥瞰整理してその本質に迫るとともに，21 世紀にむけて最重要の課題である民族紛争の制度化のために，今何が必要かを考察する。

〔1994〕978-4-8158-0229-5

園田英弘／濱名篤／廣田照幸著

士族の歴史社会学的研究
—武士の近代—

A5 判・360 頁・5,500 円

明治維新による旧武士団の解体から新しい階層秩序の形成まで，上昇組と没落組という二極に単純化しえない士族層の複雑な軌跡を歴史社会学的視点から解明。封建身分と近代的階層構造との連続性と非連続性や，近代化に果たした旧武士団の役割を明らかにする歴史社会学の成果である。

〔1995〕978-4-8158-0250-9

V. パレート著　姫岡勤訳　板倉達文校訂　古典翻訳叢書

一般社会学提要

〔品切〕A5 判・412 頁・8,000 円

人間行動の合理と非合理を凝視して「ファシズムのマルクス」とも称されたパレート。本書は 20 世紀思想界に異彩を放つパレート畢生の大著『一般社会学概論』のパレート自身による縮約版の翻訳の再刊。パレート社会学体系の全貌を鳥瞰し得るとともに，今尚社会諸科学に刺激を与え続ける。

〔1996〕978-4-8158-0269-1

出口晶子著　日本生命財団出版助成図書

川辺の環境民俗学
—鮭遡上河川・越後荒川の人と自然—

A5 判・326 頁・5,500 円

春にはサクラマス，秋にはサケがさかのぼる新潟県荒川をフィールドに，昭和 30 年代前後から現代にいたる水辺に生きた川人と川の関わり方の生態，川辺の環境変動，またその変動の具体相等々，川辺の民俗と民俗の変遷を掘り起こし，環境保全を人文科学の立場から問いなおす。

〔1996〕978-4-8158-0279-0

吉野耕作著

文化ナショナリズムの社会学
—現代日本のアイデンティティの行方—

四六判・306 頁・3,200 円

1970 年代から 80 年代にかけて輩出した多数の日本人論を文化ナショナリズムの一形態として様々な国の自民族独自論と比較しつつ，「ナショナリズムの消費」という視点を導入して現代日本における文化ナショナリズムの行方を考察。ナショナリズム，エスニシティ研究の新しい方向を示す。

〔1997〕978-4-8158-0315-5

R. ベネディクト著　筒井清忠／寺岡伸悟／筒井清輝訳

人種主義 その批判的考察

四六判・244 頁・2,800 円

本書は，『菊と刀』で著名な R. ベネディクトがナチスの人種主義への批判をこめて，「人種とは何か」「人種差別とは何であり何故起きるのか」「人種主義の歴史」そして「如何に克服するのか」等を明快に解説したもので，混沌とした現代の人種問題を考えるうえで今なお指針となりうる基本書。

〔1997〕978-4-8158-0326-1

A. D. スミス著　巣山靖司／高城和義他訳

ネイションとエスニシティ
—歴史社会学的考察—

A5 判・384 頁・4,200 円

近代的なネイションの底にあるものは何か？　ネイションやナショナリズムはまもなく乗り越えられるという楽観的な進化論を再検討するとともに，現在ふたたび生命力を示しているエスニックな要素の起源を探り，前近代的な文化とアイデンティティの運命を明らかにした名著。

〔1999〕978-4-8158-0355-1

重松伸司著

国際移動の歴史社会学
—近代タミル移民研究—

A5 判・430 頁・6,500 円

エトノス移民論の視座に立ち，マレー半島に移住したインド移民の移動・定着過程を，大英帝国の移民政策をも含めて明らかにするとともに，移民のコミュニティや複合的ネットワークの実態，そして統合と分化を深めていく移民社会の構造を，現地調査と文献資料の両面から照らし出した労作。

〔1999〕978-4-8158-0356-8

田中恭子著　南山大学学術叢書

国家と移民
—東南アジア華人世界の変容—

A5 判・406 頁・5,000 円

華人移民と国家とのせめぎあいのポリティックスを，シンガポールとマレーシアを中心に，政治的アイデンティティの変容と国民統合の過程に焦点をあてて描き出すとともに，華人をめぐる東南アジア諸国と中国との関係を眼光鋭く分析した労作。**アジア・太平洋賞特別賞受賞**

〔2002〕978-4-8158-0436-7

小林傳司著

誰が科学技術について考えるのか
—コンセンサス会議という実験—

四六判・422 頁・3,600 円

専門家や行政は信用できない？　素人は何もわかっていない？　社会の中の科学技術のあり方をめぐって専門家と市民が対話する「コンセンサス会議」。日本で初めて行われたこの新たな試みを紹介し，その背景や科学をめぐる公共空間の行方について考える。**日経 BP・BizTech 図書賞受賞**

〔2004〕978-4-8158-0475-6

梶田孝道／丹野清人／樋口直人著

顔の見えない定住化
—日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク—

A5 判・352 頁・4,200 円

移住システムの誕生から「日系ブラジル人問題」発生のメカニズムまで，デカセギをめぐる諸問題を世界的な移民研究の水準で把握，豊かなフィールド調査の成果により労働・生活過程の全体像を初めて本格的に解明するとともに，体系的な移民政策形成の重要性を示した労作。

〔2005〕978-4-8158-0502-9

梶田孝道編

新・国際社会学

〔品切〕A5 判・354 頁・2,800 円

移民や宗教，人種や民族，メディアなどから生起する新たな越境現象から，国際問題の構造変化を明晰なアプローチで把握。多様な現象の丁寧な分析・腑分けにより，均質化と差異化，包摂と排除の力学が複雑に交錯するグローバリゼーションの実像に迫り，国際社会学の新たな可能性を拓く。

〔2005〕978-4-8158-0520-3

小杉泰／林佳世子／東長靖編

イスラーム世界研究マニュアル

A5 判・600 頁・3,800 円

今日，イスラーム世界の存在がクローズアップされ，それに関する情報も飛躍的に増大している。本書は，歴史と現在をともに視野におさめ，最も信頼できる知識を凝縮，誰でもアクセスできる「知の見取り図」を提供すると同時に，研究の最先端へと進んでいける「学びのマニュアル」である。

〔2008〕978-4-8158-0594-4

小林寧子著　　南山大学学術叢書

インドネシア 展開するイスラーム

A5 判・482 頁・6,600 円

世界最大のムスリム人口を抱えるインドネシア。外来の宗教が地域に根づき，時代と社会の要請に応えて発展しつづける姿を，植民地時代から民主化後の現在まで，イスラーム法の浸透と解釈による現地化を軸に，ムスリム指導者の知的営為や政治との関係にも光をあてて動態的に描き出す。

〔2008〕978-4-8158-0596-8

S. カースルズ／M. J. ミラー著　関根政美／関根薫監訳

国際移民の時代［第 4 版］

A5 判・486 頁・3,800 円

台頭するアジアの移民動向や，新たに浮上した移民と安全保障の問題，シティズンシップや文化，政治・経済をめぐる移民の新潮流を，定評ある叙述に増補して平易に解説。グローバルな視野で，ますます深まりゆく移民社会化の行方を見通した，もっともスタンダードな世界的概説書の最新版。

〔2011〕978-4-8158-0655-2

仁平典宏著

「ボランティア」の誕生と終焉
—〈贈与のパラドックス〉の知識社会学—

A5 判・562 頁・6,600 円

人々を社会参加へと枠づける言葉は，どのような政治的・社会的文脈で生まれ，いかなる帰結をもたらしてきたのか。その言葉がまとう形はどのように作動するのか。日本のボランティア言説の展開を辿り，参加型市民社会を鋭く問いなおす。**損保ジャパン記念財団賞，日本社会学会奨励賞受賞**

〔2011〕978-4-8158-0663-7

樋口直人著

日本型排外主義
—在特会・外国人参政権・東アジア地政学—

A5 判・306 頁・4,200 円

ヘイトスピーチはいかにして生まれ，なぜ在日コリアンを標的とするのか？「不満」や「不安」による説明を超えて，謎の多い実態に社会学からのアプローチで迫る。著者による在特会への直接調査と海外での膨大な極右・移民研究の蓄積をふまえ，知られざる全貌を鋭く捉えた画期的成果。

〔2014〕978-4-8158-0763-4

吉野耕作著

英語化するアジア

—トランスナショナルな高等教育モデルとその波及—

A5 判・240 頁・4,800 円

英語支配論をこえて，ポストコロニアルな現場から——。中心国によるグローバル支配の道具といった一面的な見方をしりぞけ，マルチエスニックなマレーシアで創出された高等教育モデルとその波及を通して，アジアの英語化の生きた姿を，変動する社会と地域の中でつぶさに捉えた力作。

〔2014〕978-4-8158-0779-5

上村泰裕著

福祉のアジア

—国際比較から政策構想へ—

A5 判・272 頁・4,500 円

グローバル時代の社会的基盤とは。相互依存の深まる東アジアでは地域全体の福祉拡充が緊要となっている。福祉国家と企業福祉・家族福祉・ボランタリー福祉の関係をどう結び直すのか。東アジア諸国間で国際協力は可能か。比較研究から新時代への提言を示す。**アジア・太平洋賞特別賞受賞**

〔2015〕978-4-8158-0813-6

小井土彰宏編

移民受入の国際社会学

—選別メカニズムの比較分析—

A5 判・380 頁・5,400 円

誰を受け入れ，誰を排除するのか——移民受入をめぐる風景を一変させた政策と実態の変化を，古典的移民国，EU 諸国，後発受入国の比較により鮮明に捉え，排除と包摂のメカニズムをトータルに示す。世界を震撼させる「移民問題」を冷静に考える確かな視点を得るために。

〔2017〕978-4-8158-0867-9

野村　康著

社会科学の考え方

—認識論，リサーチ・デザイン，手法—

A5 判・358 頁・3,600 円

学際化が進む社会諸学のロジックをいかにして身につけるか。日本で初めて認識論から説き起こし，多様な調査研究手法を整理して，メソドロジーの全体像を提示する。社会科学を実践するための要諦をつかみ，創造的研究を生み出すための最良のガイドブック。**日本公共政策学会著作賞受賞**

〔2017〕978-4-8158-0876-1

安藤　究著

祖父母であること

—戦後日本の人口・家族変動のなかで—

A5 判・272 頁・4,500 円

政策の前提にもなっている，幼い孫の手をひくお年寄りという姿は，もはや当たり前ではない。平均寿命の伸びや晩婚化，性別役割分業の変化などを通して，「祖父母であること」はどう変わってきたのか。ライフコースやジェンダーに着目し，そのリアルな「現在」をとらえた力作。

〔2017〕978-4-8158-0882-2

末廣昭／大泉啓一郎編

東アジアの社会大変動

—人口センサスが語る世界—

A5 判・352 頁・5,400 円

少子化と高齢化の同時進行，メガリージョンの形成，労働者の越境など——アジアは今，大変動の真っただ中にある。各国データの徹底分析により急速な変貌を浮き彫りにするとともに，調査の実施方法やこぼれ落ちる問題にも光を当て，東アジアの現在を丸ごと捉える。

〔2017〕978-4-8158-0884-6

大谷　尚著

質的研究の考え方

—研究方法論から SCAT による分析まで—

菊判・416 頁・3,500 円

「量」では測れないものを科学的に考えるために——。質的研究に関する疑問に，ツボを押さえた説明や独自のモデルで答え，量的研究者も納得。認識論を起点に，研究を進める上で大切な考え方や質的データ分析手法 SCAT の使い方を解説する。人文・社会科学や医療等に携わる人にも最適。

〔2019〕978-4-8158-0944-7

佐藤　仁著

反転する環境国家
—「持続可能性」の罠をこえて—

四六判・366 頁・3,600 円

国家に依存した自然保護の急速な展開は何をもたらしたのか——。東南アジアをフィールドに，灌漑や森林，漁業資源をめぐって起こる思いがけない「人の支配」への転化や，開発と保護の連鎖する関係をあぶりだし，その解決策を現場の人々のしたたかな戦略や日本の経験に見出す注目作。

〔2019〕978-4-8158-0949-2

佐々木剛二著

移民と徳
—日系ブラジル知識人の歴史民族誌—

A5 判・398 頁・6,300 円

ブラジルへの貢献と移民の成功をともに導いた徳＝内面的資質と，それを体現する人々としての日系人は，いかにして生みだされたのか。移民知識人がはたした決定的役割から，日系コロニア構築の 100 年を超える歴史をとらえ，デカセギや世代交代とともに失われゆくその姿をも映し出す。

〔2020〕978-4-8158-0978-2

H. コリンズ／R. エヴァンズ著　奥田太郎監訳　和田慈／清水右郷訳

専門知を再考する

A5 判・220 頁・4,500 円

科学技術の浸透した世界で物事を決めるとき，専門家を無視することも，絶対的に信頼することもできない。では専門知とは何か。会話や「農民の知」から，査読や科学プロジェクト運営まで，その多様なあり方をトータルに把握。対話型専門知の可能性に光をあて現代社会に展望を拓く名著。

〔2020〕978-4-8158-0986-7

惠羅さとみ著

建設労働と移民
—日米における産業再編成と技能—

A5 判・370 頁・6,300 円

オリンピックや相次ぐ再開発を控え，高齢化と人手不足が著しい建設現場に導入されてきたベトナム人などの外国人技能実習生たち。安価な移民労働力の利用とみなす画一的理解をこえて，日米の比較から産業再編成と技能継承をめぐる課題に迫り，建設労働移民のグローバルな文脈を示す。

〔2021〕978-4-8158-1020-7

中村　督著　　南山大学学術叢書

言論と経営
—戦後フランス社会における「知識人の雑誌」—

A5 判・442 頁・5,400 円

メディア企業の生き方とは——。民主主義に奉仕すると同時に，資本主義の中で動くジャーナリズム。戦後フランスに生まれ，知識人を結集する一方，市場で稀有な成功を収めたニューズマガジンの歴史を，変容する社会とともに捉える。**渋沢・クローデル賞本賞，日本出版学会賞奨励賞受賞**

〔2021〕978-4-8158-1022-1

ブノワ・ゴダン著　松浦俊輔訳　隠岐さや香解説

イノベーション概念の現代史

四六判・216 頁・3,600 円

現代社会のキーワードとして君臨する「イノベーション」。いかにして考え出され，政策や経営に組み込まれていったのか。また，研究はどのように商業化に巻き込まれたのか。国際機関や省庁・企業の実務家たちに焦点を合わせ，科学・技術の「有用性」を問い直す，私たちの時代の概念史。

〔2021〕978-4-8158-1046-7

森田勝昭著

クジラ捕りが津波に遭ったとき
—生業の人類学—

四六判・376 頁・3,200 円

鯨びと，鯨の町，鯨の海——。うち続く逆境のなか，命をかけてクジラと闘うのはなぜか。歴戦の解剖リーダーや老いたる船の若き船長，部下と地域の未来を背負う社長らの語りに耳を傾け，捕鯨という「仕事」が織りなす厳しくも豊かな世界を見つめる渾身の力作。「生きてあること」とは。

〔2022〕978-4-8158-1104-4

杉江あい著

カースト再考
—バングラデシュのヒンドゥーとムスリム—

A5 判・424 頁・7,200 円

生活の場を舞台に，カーストを含む多様な集団が相互に交錯する過程を，宗教で切断せずトータルに把握。分裂した南アジア像が覆い隠してきたものをすくいだす。**国際開発学会奨励賞，国際宗教研究所賞・奨励賞，日本地理学会賞，日本南アジア学会賞，人文地理学会学会賞受賞**

〔2023〕978-4-8158-1112-9

古橋忠晃著

「ひきこもり」と「ごみ屋敷」
—国境と世代をこえて—

【医書. jp】四六判・284 頁・3,200 円

日本だけではない。若者だけではない——。共通性と違いに目を向けることで，初めて見えてくる処方箋。著者自身の国内外での臨床経験と，精神医学の知見を踏まえつつ，当事者と向きあい，社会に問いかける，「ひきこもり」「ごみ屋敷」問題を根本から考え直す洞察の書。

〔2023〕978-4-8158-1113-6

竹沢泰子著

アメリカの人種主義
—カテゴリー／アイデンティティの形成と転換—

A5 判・516 頁・4,500 円

差別を生み出し続けたステレオタイプ，制度，学知などによる黒人，アメリカ先住民，アジア系移民の人種化の実態を鋭くとらえるとともに，排除に抗うアイデンティティ形成のジレンマもはじめて一貫して提示，アートを手がかりに，固定化された対立をほどく，第一人者による渾身の成果。

〔2023〕978-4-8158-1118-1

一柳智子著

社会的企業の挫折
—途上国開発と持続的エンパワーメント—

A5 判・304 頁・6,300 円

NPO と営利企業のハイブリッドとして現れた社会的企業。その華々しい成功譚の背後には，使命と利益の両立を巡る苦悩があった。注目を集めるソーシャルビジネスの具体的事例を，当事者インタビューと現地調査を中心に長期の視点から徹底検証。持続的で多元的な社会貢献の可能性を探る。

〔2023〕978-4-8158-1121-1

高畑　幸著

在日フィリピン人社会
—1980～2020 年代の結婚移民と日系人—

A5 判・326 頁・5,800 円

バブル期に毎年数万人の流入をみたエンターテイナー世代から，ブラジル人に代わり急増する日系人まで，いまや幅広い世代と領域に広がるフィリピン人たち。外国人労働者の先駆でもある一大エスニック集団の暮らしと語りに密着し，全体像を活き活きと描き出す。**大平正芳記念賞受賞**

〔2024〕978-4-8158-1153-2

上田　遥著

食の豊かさ 食の貧困
—近現代日本における規範と実態—

A5 判・368 頁・5,400 円

「崩食」を背景として，栄養学や伝統・自然など多様な指針が乱立するいま，食の豊かさ／貧困をどう再定義するかが問われている。社会学と倫理学にもとづく新たな指針を提示，歴史的考察と広範な食卓調査から，私たちの「善き食生活」への道を拓く力作。**日本農業経済学会学術賞**

〔2024〕978-4-8158-1166-2

飯尾真貴子著

強制送還の国際社会学
—「ヒスパニック」系移民とアメリカのゆくえ—

A5 判・334 頁・6,800 円

史上最大とも称される国外追放政策は，移民社会に何をもたらすのか。米国とメキシコをつなぐ画期的な調査を通して，取締り・収容から帰国後のさらなる困難，分断される家族，再移動の試みまで，一国に限定された視野では捉えきれない強制送還の全容を力強く描き，移民論の新領域を拓く。

〔2025〕978-4-8158-1190-7

南川文里著

リトルトーキョーは語る
—凝集・越境・包摂の日系アメリカ史—

A5 判・328 頁・5,400 円

二重国籍者や移民女性から黒人・コリア系まで，モデル・マイノリティの物語からこぼれ落ちる者たちは，日系コミュニティといかに交わり，何を残したのか。戦時強制収容のインパクトや出身国日本との関係にも新たな解釈を与え，国境・人種をこえた多層的な語りをもとに歴史像を刷新する。

〔2025〕978-4-8158-1215-7

森千香子／南川文里／村上一基編

国際社会学の技法
—考える・実践する・変える—

A5 判・346 頁・2,700 円

いまや「グローバル化」の語はかつての輝きを失い，これまでの認識や前提は大きく揺らいでいる。キー概念と方法論を根本から整理しなおし，外国人労働者からセトラー・コロニアリズムまで最先端の事象をもとに国際社会学のアクチュアリティを示す，新たな本格派テキスト。

〔2026〕978-4-8158-1225-6

ミッチェル・デュニアー著　宝月誠監訳　鎌田大資訳

ゲットー
—ヨーロッパからアメリカへ—

A5 判・392 頁・5,800 円

ヨーロッパのユダヤ人居住区，ナチの強制収容所から，アメリカの黒人地区まで，「ゲットー」はなぜ生み出されてきたのか——。シカゴとニューヨークを舞台とする先駆的な調査研究や草の根の実践を歴史の中で読み解き，人種・貧困・排除などの問題が重なり合う都市空間に迫る名著。

〔2026〕978-4-8158-1229-4